

タイトル「**2022年度危機管理学部(公開)**」、フォルダ「**危機管理学部**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	RMGT3574		
科目名	情報倫理		
担当教員	高良 幸哉		
対象学年	2年,3年,4年	開講学期	前期
曜日・時限	木 1		
講義室	1205	単位区分	選
授業形態	講義	単位数	2
科目大分類	専門科目		
科目中分類	専門展開		
科目小分類	専門・危機管理		
科目の位置付け（開発能力）	■ D Pコード-学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 DP1-E [学識・専門技能]専門分野にかかる理論知と実践知を獲得し利用することができる。 DP4-F[探求力・課題解決力]問を設定し又は論点を特定し、それに対する答・結論・判断を合理的に導くために、論拠の収集と分析を体系的に行うとともに、オープンエンドな問題・課題に答えるための方略をデザインし、検証し実行することができる。 ■ C Rコード-学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック（C R）との関連 C1倫理的思考・社会認識－10% E1学識と専門技能－30% F1探求と論拠－10% G1状況把握－10% H1倫理的思考－20% I3情報分析－20%		
教員の実務経験	地方自治体の審議会委員、大学の文献情報センター職員の経験のある教員が、デジタル化・ネットワーク化・グローバル化の観点から、情報倫理の現実的課題を具体的に提示し、体系的な理解と問題意識を醸成します。1～15回。		
成績ターゲット区分	3進期～4発展期		
科目概要・キーワード	メディア、情報技術の進化と普及により、それらを利用するユーザの側のモラルが問われる問題が発生するようになりました。企業や組織の情報流出や、個人情報の悪用、コピー&ペーストによる著作権侵害、プライバシー侵害など、メディアや情報技術をめぐる諸問題について具体的に分析し、現代人に必要な情報に関するリテラシーと情報倫理のあり方について考察します。情報倫理の問題について総合的な理解を深めるとともに、情報倫理それ自体を身につけることを目的とします。授業形態は講義によりおこないます。オンラインで行う場合はオンデマンドで行います。 ・キーワード： 情報リテラシー ・ネチケット ・メディアリテラシー		
授業の趣旨	■ 副題 被害者や加害者にならないための情報リテラシー ■ 授業の目的 現代人に必要な情報に関するリテラシーと情報倫理のあり方について、自ら説明できるだけの能力を身につける。 ■ 授業のポイント デジタル・ネットワークを利用してできることは、急速かつ飛躍的に多くなりました。現在のインターネットでは、音楽や高画質の動画、巨大なプログラムなど多種多様なコンテンツが大量に流通しており、インターネットを利用して商品やサービスを購入したり、人との交流を深めたり広めたりすることが、ごく普通のことになっています。また、携帯端末の普及によっ		

	て、ほとんど常にネットワークに接続しているという人も増えています。そのようななかで、情報に関する倫理の重要性も高まっています。双方向性があり情報発信の裾野が広いデジタルネットワーク社会において正しい情報倫理を身につけていないと、思わぬ形で他人を傷つけたり自分が被害を被ったりすることになりかねません。デジタル・ネットワークが普及する以前とは違った情報倫理を身につける必要があります。この講義では、デジタル・ネットワークの進展が社会や人々の生活にどのような変化をもたらしているのかを解説し、これによって生じている情報倫理に関する新しい問題を検討します。メディア、情報技術の進化と普及により、それらを利用するユーザーの側のモラルが問われる問題が発生するようになりました。企業や組織の情報流出や、個人情報の悪用、コンテンツのコピーや著作物のコピーなどの著作権の無視、プライバシー侵害など、メディアや情報技術をめぐる諸問題に関する知識を習得します。そして、現代人に必要な情報に関するリテラシーと情報倫理のあり方について、自ら説明できるだけの能力を身につけることを目的とします。								
総合到達目標	■情報倫理とリテラシーに関して基本的な知識を身につけ、自分なりの考えを論理的に説明できるようになる。 ■デジタル・ネットワーク社会における被害者や加害者とならない様に、情報倫理とリテラシーに関する知識を活用できるようにする。								
成績評価方法	■授業内のレポート：2回（60%） （評価の観点）講義内容を踏まえ、与えられた設問に対して、的確かつ論理的に答えているかどうかを評価します。 適用ルーブリック：C1（15%）、E1（45%）、F1（10%）、I3（30%） （フィードバックの方法）授業中に説明する。 ■ミニレポート（レポート形式によるリアクションペーパー）：4回（40%） （評価の観点）講義内容を踏まえ、与えられた設問に対して、的確かつ論理的に答えているかどうかを評価します。 適用ルーブリック：C1（15%）、E1（45%）、F1（10%）、I3（30%） （フィードバックの方法）授業中に説明する。								
履修条件	特にありません。								
履修上の注意点	特にありません。								
授業内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th><th>内容</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td> ①授業テーマ ガイダンス（全体テーマおよび進め方の説明） ②授業概要 授業のテーマや内容、スケジュール、評価方法と、情報倫理の学習方法や研究方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする（適用ルーブリックC1：15%、E1：45%、F1：10%、I3：30%）。 担当教員の実務経験を踏まえて、デジタル化・ネットワーク化・グローバル化等の観点から、情報法の現実的課題を具体的に提示し、体系的な理解と問題意識を醸成します。 ③予習（120分） シラバスの内容をよく読み、教科書を入手して「はじめに」を読む。 ④復習（120分） 講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。 </td></tr> <tr> <td>2</td><td> ①授業テーマ 情報倫理とは（概論） ②授業概要 インターネット社会における情報倫理の意義と、情報リテラシー、情報セキュリティ、情報法との関係を学び、受講者がそれについて説明できるようにする（適用ルーブリックC1：15%、E1：45%、F1：10%、I3：30%）。 担当教員の実務経験を踏まえて、デジタル化・ネットワーク化・グローバル化等の観点から、情報法の現実的課題を具体的に提示し、体系的な理解と問題意識を醸成します。 ③予習（120分） 予習：教科書『情報モラル&情報セキュリティ 改訂3版』（FOM出版、2020年）の「第1章 情報化社会のモラルとセキュリティ」を読み、インターネット社会における情報倫理の意義について考察する。 ④復習（120分） 講義ノートを確認して、情報倫理と情報セキュリティ・情報法の関係について、自分なりの説明をまとめる。 </td></tr> <tr> <td>3</td><td> ①授業テーマ 個人情報と情報倫理 ②授業概要 個人情報の取扱いにはどのような注意が必要であるかを学ぶ（適用ルーブリックC1： </td></tr> </tbody> </table>	回	内容	1	①授業テーマ ガイダンス（全体テーマおよび進め方の説明） ②授業概要 授業のテーマや内容、スケジュール、評価方法と、情報倫理の学習方法や研究方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする（適用ルーブリックC1：15%、E1：45%、F1：10%、I3：30%）。 担当教員の実務経験を踏まえて、デジタル化・ネットワーク化・グローバル化等の観点から、情報法の現実的課題を具体的に提示し、体系的な理解と問題意識を醸成します。 ③予習（120分） シラバスの内容をよく読み、教科書を入手して「はじめに」を読む。 ④復習（120分） 講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	2	①授業テーマ 情報倫理とは（概論） ②授業概要 インターネット社会における情報倫理の意義と、情報リテラシー、情報セキュリティ、情報法との関係を学び、受講者がそれについて説明できるようにする（適用ルーブリックC1：15%、E1：45%、F1：10%、I3：30%）。 担当教員の実務経験を踏まえて、デジタル化・ネットワーク化・グローバル化等の観点から、情報法の現実的課題を具体的に提示し、体系的な理解と問題意識を醸成します。 ③予習（120分） 予習：教科書『情報モラル&情報セキュリティ 改訂3版』（FOM出版、2020年）の「第1章 情報化社会のモラルとセキュリティ」を読み、インターネット社会における情報倫理の意義について考察する。 ④復習（120分） 講義ノートを確認して、情報倫理と情報セキュリティ・情報法の関係について、自分なりの説明をまとめる。	3	①授業テーマ 個人情報と情報倫理 ②授業概要 個人情報の取扱いにはどのような注意が必要であるかを学ぶ（適用ルーブリックC1：
回	内容								
1	①授業テーマ ガイダンス（全体テーマおよび進め方の説明） ②授業概要 授業のテーマや内容、スケジュール、評価方法と、情報倫理の学習方法や研究方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする（適用ルーブリックC1：15%、E1：45%、F1：10%、I3：30%）。 担当教員の実務経験を踏まえて、デジタル化・ネットワーク化・グローバル化等の観点から、情報法の現実的課題を具体的に提示し、体系的な理解と問題意識を醸成します。 ③予習（120分） シラバスの内容をよく読み、教科書を入手して「はじめに」を読む。 ④復習（120分） 講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。								
2	①授業テーマ 情報倫理とは（概論） ②授業概要 インターネット社会における情報倫理の意義と、情報リテラシー、情報セキュリティ、情報法との関係を学び、受講者がそれについて説明できるようにする（適用ルーブリックC1：15%、E1：45%、F1：10%、I3：30%）。 担当教員の実務経験を踏まえて、デジタル化・ネットワーク化・グローバル化等の観点から、情報法の現実的課題を具体的に提示し、体系的な理解と問題意識を醸成します。 ③予習（120分） 予習：教科書『情報モラル&情報セキュリティ 改訂3版』（FOM出版、2020年）の「第1章 情報化社会のモラルとセキュリティ」を読み、インターネット社会における情報倫理の意義について考察する。 ④復習（120分） 講義ノートを確認して、情報倫理と情報セキュリティ・情報法の関係について、自分なりの説明をまとめる。								
3	①授業テーマ 個人情報と情報倫理 ②授業概要 個人情報の取扱いにはどのような注意が必要であるかを学ぶ（適用ルーブリックC1：								

	15%、E1 : 45%、F1 : 10%、I3 : 30%)。ミニレポート課題①を提示する。 担当教員の実務経験を踏まえて、デジタル化・ネットワーク化・グローバル化等の観点から、情報法の現実的課題を具体的に提示し、体系的な理解と問題意識を醸成します。 ③予習 (120分) 教科書『情報モラル&情報セキュリティ 改訂3版』(FOM出版、2020年)の「第2章 個人情報の適正な取り扱い」を読み、個人情報と情報倫理について考察する。 ④復習 (120分) 講義ノートを確認して、個人情報の取扱いにはどのような注意が必要であるか、自分なりの説明をまとめる。
4	①授業テーマ 情報化と知的財産権 ②授業概要 情報化と知的財産権制度について学び、受講者がそれについて説明できるようにする (適用ルブリッカーC1 : 15%、E1 : 45%、F1 : 10%、I3 : 30%)。ミニレポート課題①について説明する。 担当教員の実務経験を踏まえて、デジタル化・ネットワーク化・グローバル化等の観点から、情報法の現実的課題を具体的に提示し、体系的な理解と問題意識を醸成します。 ③予習 (120分) 教科書『情報法入門 (第5版) デジタル・ネットワークの法律』(NTT出版、2020年)の「3-3-1 情報化と知的財産制度」「3-3-2 著作権制度の概要」を読み、インターネット上の知的財産権に関する問題について考察する。 ④復習 (120分) 講義ノートを確認して、情報化が知的財産権制度に与える影響について、自分なりの説明をまとめる。
5	①授業テーマ デジタルコンテンツと著作権 ②授業概要 デジタルコンテンツの進展が著作権に与える影響について学び、受講者がそれについて説明できるようにする (適用ルブリッカーC1 : 15%、E1 : 45%、F1 : 10%、I3 : 30%)。ミニレポート課題②を提示する。 担当教員の実務経験を踏まえて、デジタル化・ネットワーク化・グローバル化等の観点から、情報法の現実的課題を具体的に提示し、体系的な理解と問題意識を醸成します。 ③予習 (120分) 教科書『情報法入門 (第5版) デジタル・ネットワークの法律』(NTT出版、2020年)の「3-3-3 デジタル・ネットワークと著作権」、教科書『情報モラル&情報セキュリティ 改訂3版』(FOM出版、2020年)の「第3章 デジタル時代の著作権」を読み、インターネット上の著作権に関する問題について考察する。 ④復習 (120分) 講義ノートを確認して、デジタルコンテンツの進展が著作権に与える影響について、自分なりの説明をまとめる。
6	①授業テーマ トラブル事例と対処策 ②授業概要 ネットを利用して遭遇する可能性が高い、コンピュータ・ウィルス、なりすまし、ネットショッピング等のトラブルについて、その内容と対処策について学び、受講者がそれについて説明できるようにする (適用ルブリッカーC1 : 15%、E1 : 45%、F1 : 10%、I3 : 30%)。 担当教員の実務経験を踏まえて、デジタル化・ネットワーク化・グローバル化等の観点から、情報法の現実的課題を具体的に提示し、体系的な理解と問題意識を醸成します。 ③予習 (120分) 教科書『情報モラル&情報セキュリティ 改訂3版』(FOM出版、2020年)の「第4章 ネット社会に潜む危険と対策」を読み、ネットトラブルへの対処方法について考察する。 ④復習 (120分) 講義ノートを確認して、トラブル事例の防止や対処の仕方について、自分なりの説明をまとめる。
7	①授業テーマ 前半のまとめと質疑応答 ②授業概要 第6回までの授業で学んだ内容について質問や意見を受け付けそれに対する回答を行うとともに、前半の授業に関する補足とまとめを行う (適用ルブリッカーC1 : 15%、E1 : 45%、F1 : 10%、I3 : 30%)。レポート課題①について説明する。授業内レポート課題①を提示する。

	担当教員の実務経験を踏まえて、デジタル化・ネットワーク化・グローバル化等の観点から、情報法の現実的課題を具体的に提示し、体系的な理解と問題意識を醸成します。 ③予習（120分） ミニレポートとして提示される「質問・意見」について、自分の疑問に思った点、理解が難しかった点等を記述して提出する ③復習（120分） 講義ノートを確認して、自分の疑問点が解決したかどうか、新たな疑問が生じていないかどうかを考察する。
8	①授業テーマ メールによるコミュニケーション ②授業概要 迷惑メールに対する規制やメールに求められるマナーについて学び、受講者がそれについて説明できるようにする（適用ルブリッカーC1：15%、E1：45%、F1：10%、I3：30%）。 担当教員の実務経験を踏まえて、デジタル化・ネットワーク化・グローバル化等の観点から、情報法の現実的課題を具体的に提示し、体系的な理解と問題意識を醸成します。 ③予習（120分） 教科書『情報モラル&情報セキュリティ 改訂3版』（FOM出版、2020年）の「第5章 メールによるコミュニケーション」を読み、コミュニケーションとマナーについて考察する。 ④復習（120分） 講義ノートを確認して、迷惑メールに対する規制やメールに求められるマナーについて、自分なりの説明をまとめる。
9	①授業テーマ Webによるコミュニケーション ②授業概要 SNS（ソーシャル・ネットワーク・システム）、掲示板等におけるコミュニケーションによって起こりうる問題について学ぶ（適用ルブリッカーC1：15%、E1：45%、F1：10%、I3：30%）。 担当教員の実務経験を踏まえて、デジタル化・ネットワーク化・グローバル化等の観点から、情報法の現実的課題を具体的に提示し、体系的な理解と問題意識を醸成します。 ③予習（120分） 教科書『情報モラル&情報セキュリティ 改訂3版』（FOM出版、2020年）の「第6章 Webによるコミュニケーション」を読み、コミュニケーションとマナーについて考察する。 ④復習（120分） 講義ノートを確認して、Webコミュニケーションに関する危険と対処の仕方について、自分なりの説明をまとめる。
10	①授業テーマ モバイル機器と情報倫理 ②授業概要 ケータイ、スマートフォン等のモバイル機器の普及による生活の変化と、それによる情報倫理上の問題について学び、受講者がそれについて説明できるようにする（適用ルブリッカーC1：15%、E1：45%、F1：10%、I3：30%）。ミニレポート課題③を提示する。 担当教員の実務経験を踏まえて、デジタル化・ネットワーク化・グローバル化等の観点から、情報法の現実的課題を具体的に提示し、体系的な理解と問題意識を醸成します。 ③予習（120分） 教科書『情報モラル&情報セキュリティ 改訂3版』（FOM出版、2020年）の「第7章 モバイル機器の活用と管理」を読み、情報化によるライフスタイルの変化とそれとともなう問題について考察する。 ④復習（120分） 講義ノートを確認して、モバイル機器に関連する危険と対処策について、自分なりの説明をまとめる。
11	①授業テーマ メディア・リテラシー ②授業概要 膨大な情報が入手できるようになった現代において、マスメディアやインターネットを通じて発信される情報を受け止める際に、どのような注意が必要であるかを学び、受講者がそれについて説明できるようにする（適用ルブリッカーC1：15%、E1：45%、F1：10%、I3：30%）。 担当教員の実務経験を踏まえて、デジタル化・ネットワーク化・グローバル化等の観点から、情報法の現実的課題を具体的に提示し、体系的な理解と問題意識を醸成します。

	③予習（120分） マスメディアやインターネットによって間違った情報や偏った意見を信じてしまったことがないかを振り返り、どうすればそうしたことを防げるかを考える。 ④復習（120分） 講義ノートを確認して、メディア・リテラシーについて、自分なりの説明をまとめる。
12	①授業テーマ デマ・炎上と情報発信の危険性 ②授業概要 情報発信の裾野が広がっていることによって、さまざまな風評被害が発生しやすくなっている。こうした風評被害の問題点と表現の自由との関係について学び、受講者がそれについて説明できるようにする（適用ループリッカーC1：15%、E1：45%、F1：10%、I3：30%）。 担当教員の実務経験を踏まえて、デジタル化・ネットワーク化・グローバル化等の観点から、情報法の現実的課題を具体的に提示し、体系的な理解と問題意識を醸成します。 ③予習（120分） 風評被害の実例を調べ、その問題点を考察する。 ④復習（120分） 講義ノートを確認して、風評被害防止の在り方について自分なりの説明をまとめる。
13	①授業テーマ インターネットと青少年保護 ②授業概要 インターネットにおける青少年保護について、問題とされる情報や保護のための対策や制度について学び、受講者がそれについて説明できるようにする（適用ループリッカーC1：15%、E1：45%、F1：10%、I3：30%）。ミニレポート課題④を提示する。 担当教員の実務経験を踏まえて、デジタル化・ネットワーク化・グローバル化等の観点から、情報法の現実的課題を具体的に提示し、体系的な理解と問題意識を醸成します。 ③予習（120分） 教科書『情報法入門（第5版）デジタル・ネットワークの法律』（NTT出版、2020年）の「3-2-3. 青少年保護と有害情報」を読み、青少年有害情報への対策について考察する。 ④復習（120分） 講義ノートを確認して、インターネット上の青少年保護の課題について、自分なりの説明をまとめる。
14	①授業テーマ ネット上のハラスメント等 ②授業概要 インターネット上で問題となる児童ポルノ、リベンジポルノ、ネットいじめ、ネット炎上、パッカー（反社会的行動をネットにさらけ出す行為）等の問題事例と、その法的な位置づけを学び、受講者がそれについて説明できるようにする（適用ループリッカーC1：15%、E1：45%、F1：10%、I3：30%）。 担当教員の実務経験を踏まえて、デジタル化・ネットワーク化・グローバル化等の観点から、情報法の現実的課題を具体的に提示し、体系的な理解と問題意識を醸成します。 ③予習（120分） 児童ポルノ、リベンジポルノ、ネットいじめ、ネット炎上等についてインターネットで調べて、問題点を考察する。 ④復習（120分） 講義ノートを確認して、これらの行為に関する課題について自分なりの説明をまとめる。
15	①授業テーマ まとめ ②授業概要 14回の授業で学習したことを総括し情報倫理に関するまとめを行う（適用ループリッカーC1：15%、E1：45%、F1：10%、I3：30%）。授業内レポート課題②について説明する。 担当教員の実務経験を踏まえて、デジタル化・ネットワーク化・グローバル化等の観点から、情報法の現実的課題を具体的に提示し、体系的な理解と問題意識を醸成します。 ③予習（120分） 講義ノート全体と教科書の該当部分（講義で取り上げた部分）を読みなおし、各回のテーマについて自分の考えをもとに論じられるように準備する。 ④復習（120分） 授業の内容を振り返り、自分の考えを再検証するとともに、今後の学習方針を考える。
関連科目	メディアコミュニケーション論（RGMT 3572）、情報管理論（RGMT 3571）

教科書	富士通FOM株式会社『情報モラル&情報セキュリティ 改訂3版』（FOM出版、2020年）、小向太郎『情報法入門（第5版）デジタル・ネットワークの法律』（NTT出版、2020年）
参考書・参考URL	授業内で適宜指示します。
連絡先・オフィスアワー	連絡先は授業時に提示します。 授業前後の時間で 学生からの質問に対応します。
研究比率	災害マネジメント10%：パブリックセキュリティ10%：グローバルセキュリティ10%：情報セキュリティ70% 危機管理学50%：法学50%

